

自己評価表（結果）

学校番号	88	静岡県立浜松工業高等学校（本）	課程	全日制	記載者	福井 一恭
------	----	-----------------	----	-----	-----	-------

今年度の重点目標（学校経営目標）		評価	成果と課題	次年度の取組
ア	時代の変化に対応した新しい工業教育の推進	B	ものづくりのグローバル化に対応すべく本校でも、台湾や中国との姉妹校提携や国際交流事業を進めることができた。また、SSH検討委員会を新たに設置し、時代の変化に対応した新たな工業教育の検討を行い、文部科学省にSSHの指定申請を行った。	国際交流事業の更なる推進や、時代の変化に対応した新しい工業教育について検討を進めていく。
イ	学力向上の推進	B	基礎基本の充実、わかる授業の推進や、朝学習、土曜講座（サテライン）を実施することで、学力向上を推進することができた。	引き続き、基礎基本の充実、わかる授業の推進、朝学習、土曜講座を実施し、学力向上を図る。
ウ	生徒を前面に出した教育活動の推進	A	生徒会活動、週番活動、部活動などを通して、生徒が自主的に学校行事に参加することができた。特に秋に実施した学校祭・体育大会では、生徒会を中心として、全校生徒が積極的に関わることができた。また、運動部はもとより、工業高校ならではのコンテスト等（WAZAフェスタ、ARDF世界大会、情報オリンピック、ロボット大会）などにも積極的に参加することができた。	学校行事、生徒会活動、部活動、各種コンテストへの参加など、様々な場面を通して、生徒の自主的な活動を進めていくことで、生徒の自主自立性を高めていく。
エ	広報活動の一層の充実	A	地域への施設開放や、ほぼ毎日更新した学校ホームページによる情報提供、学校説明会や各種刊行物等により、学校の教育活動を広く広報することができた。	地域への情報提供、施設開放や学校ホームページ、各種刊行物等により、より一層の広報活動を実施していく。
オ	生き方教育の推進（進路目標の早期決定）、基本的生活習慣の育成	A	登校指導、挨拶の励行、学年ごと実施する進路説明会等により様々な場面で生き方教育を進めることができた。アンケート結果では、昨年と比較して、挨拶ができる割合が更に良くなり、基本的生活習慣の向上が図れた。	登校指導、挨拶等の指導や、進路説明会等により引き続き、生き方教育の推進を図る。

〔共通〕

様式第4号

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
学校経営	適切な教育目標の設定	生徒・学校・地域社会の実態に即した教育目標を設定する。	1	工業高校としての速やかな情報発信を行い、地域・小中学校・保護者への広報活動の充実を図る。	工	A	中学校出前講座、夜間に実施した学校説明会、ホームページをほぼ毎日更新することにより、地域・保護者への情報発信を行うことができた。	本校の教育活動の内容を、速やかに地域へ情報発信し続けていけるように、学校ホームページほか様々な方法により実施していく。
	開かれた学校づくりの推進	教育活動の内容等について保護者や地域等への情報発信に努めるとともに地域の人材活用を図る。	2	本校の教育活動を、印刷物やホームページで迅速かつ正確な情報として発信する。	工	A	教育活動の内容を日頃より広く地域に発信すべく、毎日ホームページを更新した。また、「初生だより」等の印刷物の配布等を行った。	教育活動の内容を保護者や地域に向けて、広く公開できるように、シラバス等も含めて検討していく。
	事務の適切な執行	表簿等の管理を厳正に行うとともに、事務の効率化、セキュリティの徹底を図る。	3	NESの導入に伴う文書管理方法の変更を視野に入れながら新たなシステム構築を検討する。		B	会議室予約、文書共有、掲示板等の利用、メールの利用などにより事務の効率化を進めることができた。	引続き、NESの導入により、成績管理、会議室予約、掲示板等を利用して、事務の効率化を進める。
	組織的・機能的な学校運営	各分掌間の連携を図り、教職員の共通理解に基づいた教育活動を行う。	4	分掌内の役割分担を明確にし、組織的で効率的な運営を図る。		A	校内委員会を整理するとともに、新たにSSH検討委員会を立ち上げた。	前年度の反省を踏まえ、組織の効果的な役割分担等について検討し、改善を図る。
教育課程	生徒の実態等を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施	教育目標、重点目標及び生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成・実施するとともに、点検・改善に努める。	5	生徒の実態を考慮し、平成25年度入学生および新学科の教育課程の検討・準備を行う。	ア	A	新学習指導要領に基づき、生徒の実態および進路を踏まえた教育課程の変更・編成を行った。	幅広い進路選択に対応できる教育課程の検討を行う。
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図るとともに、個に応じた指導を行なう。	6	授業公開週間や研究授業を活用して、授業内容の改善を図る。	イ	B	授業公開週間において、相互に積極的な授業見学ができてはいない。	研修課との連携を強化し、授業公開や研究授業を有効に活用する方法を検討する。
	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成	授業形態や教材の工夫・改善を図る。	7	授業を通して職業観・勤労観の育成を図り、実習を通して生き方・在り方を学ぶ。	イ	A	各学科において、講師を招請し授業を展開することで、技術指導の工夫がなされた。また、技能検定などの資格試験にも積極的に取り組めた。	各教科において実践的な内容に触れる機会を増やし、職業観・勤労観の育成を図り、資格取得等への積極的な取り組みを目指す。
学習の総合的・時間的	自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成	横断的・総合的な学習、探究的な学習の充実に留意し、目標を踏まえた学習活動を実施する。	8					

様式第4号

特別活動	社会性及び自主的・実践的な態度の育成	教育目標を踏まえ、創意工夫を凝らしたホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の推進を図る。	9	生徒会を中心に学校行事をとおして企画運営の機会を与え主体的に行事に取り組む姿勢、リーダー資質を身につけさせる。	ウ	A	各行事に対し、生徒会、週番委員会、応援委員会、実行委員会等を中心に生徒自ら主体的に企画、立案し、積極的に実行する意識が強くなった。	さらに、生徒の主体の場を増やし、広い視点に立たせ生徒会、各委員会の活動をもとに学校環境全体に良い雰囲気を広げていく。
部活動	生徒の自主的・自発的な活動による学校生活の充実	指導方法等について工夫・改善を図る。	10	部活動の月間練習計画等の立案に生徒を参加させ、生徒の自主性を育てる。	ウ	A	練習計画立案に生徒も参加し、企画運営能力や主体性が身についていた。文武両道の精神を理解し、両立を目指し時間を有意義に計画をし実行している。	部活に重たくなならないよう勉学の本分をおさえ、本質を見失うことなく集会や個々など様々な機会を通じて、意識の喚起と高揚を図る。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻等の減少を図るなど基本的な生活習慣の確立に努める。	11	登校指導等で意識向上を図り、一人一人にきめ細かい声かけ指導を行う。	オ	A	早朝登校生活指導に高い意識をもつようになり、全体的に改善された。しかし、一部の生徒については家庭環境上情報交換が必要である。	ゆとりをもった登校が、安全生活の基本であり高い意識を持たせる。家庭事情を持つ一部生徒への具体的な対応策を検討し、連携を密にする。
	モラルの育成	マナーや社会的規範意識の育成を図る。	12	登校指導や日常的に礼儀正しく挨拶のできる習慣づけを行う。数値目標評価80%以上	オ	A	登校指導を中心に日常的に指導を実施し意識の喚起を図った。意識は高く数値目標の80%以上だが、結果ほど積極的な挨拶かは疑問であり課題である。	学校全体に意識が浸透してきている。さらに、生徒が高い意識で主体的に積極的に挨拶ができるよう確立させる。
	安全教育の充実	生徒の防犯意識及び安全対応能力の向上を図る。	13	学校安全計画の作成、交通講話、街頭指導、自転車点検等を利用して生徒の意識の向上を図る。数値目標、自転車事故15件以下	オ	B	学校安全計画書の作成、集会での喚起、自転車点検年3回、交通講話1回、交通安全週間及び毎月0の日に街頭指導を実施した。しかし、現在事故23件あり徹底指導する。	新年度に向け学校安全計画書の確認を徹底すると共に、生徒一人一人、そして全体の雰囲気注意到注意をし各学年、関係課との連携を密にし粘り強く積極的な安全指導を行う。自転車事故15件以下
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成	就業に関わる体験的活動や計画的・体系的なキャリア教育を推進する。	14	生徒企業研究やインターンシップ実施の支援をする。	オ	A	インターンシップの参加率は昨年同様28%だった。2年次において、科ごとに職場見学を計画し実施した。企業研究は1年生が主体となって実施した。	2年次のインターンシップと職場見学や1年次の卒業生による講話、企業研究などキャリア教育に繋がる行事の実施と支援をする。
	主体的に進路を選択し、自己実現を図ることができる能力の育成	進路希望達成のための指導の充実を図る。	15	より良い進路選択を目指して、進路課、学年と協議しながらLHRの活用、企業訪問、進学指導を実践していく。	オ	A	3学年と連携しながら進路指導を進めることができた。生徒が希望する企業訪問をほぼ実施することができ、進路に大きな参考となった。	担任・学年と連携しながら、生徒の能力に合わせた進学指導を行う。就職指導では、分かりやすい企業情報の提供に努める。
保健指導	心身の健康の保持・増進	心身の健康の保持・増進のため、病気予防、朝食摂取や薬物乱用の防止等の取組を推進する。	16	各種検診後の追跡調査を実施。完全治癒を目指す。「朝の健康調査」を実施し、集団発生の予防に努める。	オ	B	はしか予防接種率が86%と目標を大きく下まわった。薬学講座思春期教室は生徒保護者のアンケートから役立っている。ノロ・インフルエンザ等の集団感染が発生していないので対策は出来ていた。	規則正しい日常生活を確立し心身を健康に保つ事の大切さをさらに啓発していく。実習、体育、諸活動における怪我の予防に努める。衛生的な環境作りの大切さを啓発していく。

様式第4号

活用指導 図書館	読書指導の推進	朝読書等、読書指導の充実を図る。	17	後の読書習慣確立につながるような読書会や読書週間の有意義な運用	オ	B	図書委員生徒のリーダーシップがなかなか育たなかった。	図書委員生徒の自覚を促し育てる指導の模索。
	図書館活用の促進	図書館を活用した学習活動の充実を図る。	18	読書、閲覧、学習、自主講座等での来館生徒の増加	オ	B	貸し出し冊数は例年に比べ約3割増。来館者数も微増。しかしながら、決して利用が活発という状況ではない。	図書館に足を向けてもらうための特設展示の工夫や選書方法の再検討。
教職員上の資質向上	教職員の資質能力の向上	校外研修への参加及び校内研修の充実を推進する。	19	職員が必要としている情報や技術をタイムリーに提供する。各研修を周知案内し、研修成果を必要に応じて公開する。		B	校内LANの再編成に関する研修と、生徒との信頼関係を深める研修を行った。授業改善は検定試験の対策について研究した。	研修会の内容を周知し、その資料を提供することで、問題意識を持ってもらい研修会参加を促進させる。
教育相談	相談体制の充実	校内外における相談体制を整備する。	20	相談しやすい環境づくりをし、関係者との連携を密にし組織的な支援体制を確立する	オ	A	相談室に担当者の常駐。3分間カウンセリングの実施。SCからの専門的な助言は生徒理解や支援に役立った。	相談しやすい環境づくりに努め、3分間カウンセリング、調査、SCを継続して支援体制の充実を図る。
福利厚生	教職員の健康の保持・増進	教職員の心身の健康の保持・増進を支援する。	21	職場の健康づくり支援事業として体操教室を開催する。全職員の検診の実施。		A	理学療法士による「腰痛、肩こり、膝痛解消、体ほぐし体操」を実施した。	職員の希望する内容の講座を企画して、参加を呼びかける。
危機管理	危機管理に関する校内体制の整備	学校や地域の状況を踏まえた学校独自の危機管理マニュアルに基づく実践的な訓練により学校の危機対応能力の向上を図る。	22	地域と連携した校内防災組織の再編成を行う。		B	土木科3年有志による岩手県小友町訪問発表、浜松市危機管理課による防災対策等の発表を行った。	避難地としての指定はないが、実際に災害が起こったときの校内体制づくりを行う。
事務部運営	教育活動の支援	教務部との連携を図り、教育活動を支援する。	23	学科長、分掌主任、教科主任等との連絡調整を密にし、情報の共有を図るとともに、教員への情報提供に努める。		A	学科長会等で情報提供を行うとともに、日常業務の遂行に当たっては担当者で連絡調整や日報での連絡を行い教育活動に円滑に実施できるように努めた。	引き続き、全日制と定時制の両方と連絡調整を図り、円滑な学校運営に努める。
	親切・丁寧な対応の徹底	生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な対応を行う。	24	生徒、来訪者に対して相手の側に立った親切で丁寧な対応をするとともに来室者が話しやすい雰囲気作りを努める。		A	日頃から親切で丁寧な対応に努め、一定の成果を収めることができた。	本年度は臨時事務員が配置されたため、一定の成果を収めることができたが、本務職員だけでは親切、丁寧な対応ができない恐れがある。
	学校事務の効率化	常に創意・工夫した事務改善を図る。	25	NESパソコンを利用して、様式集の整備等を行い、様式の統一と事務の効率化を図る。		B	育児休業者がいたことを考慮するとよくやったと思うが、日常業務を処理するだけに追われ、事務改善までは手が回らなかった。	特定の事務職員にかなりの負担を強いている側面があるため、負担軽減の図る意味からも業務の効率化を推進する必要がある。

様式第4号

	学校経営予算に基づく予算の編成及び執行	当該年度の重点的取組を推進するための予算編成を行うとともに、計画的に予算を執行する。	26 「最小限の経費で最大限の効果」を目標とし、年々減額される学校経営予算のより効果的な執行に努める。	/	B 適正な予算執行に努めたが、予算留保や前年度と担当者が変わったこともあり、予算の早期執行は十分ではなかった。	限られた予算であるため、適正で効率的な執行に心掛ける必要がある。
	教育環境の整備	施設・設備の整備充実を図る。	27 安全で快適な環境で学校教育活動が行えるようにするため、施設の維持補修と設備の維持管理に努める。	/	B 安全上早急に対応する必要がある施設修繕や授業に支障がある設備修繕等には対応したが、施設や設備の改修までは手が回らなかった。	施設の老朽化が激しいため、教育委員会の協力を得ながら、施設の維持補修に努める。

〔学科〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
工業科	技能、技術教育の充実	ものづくり教育を強化するとともに、数学及び英語の実力養成を図る。	33	WAZAフェスタならびに専門技術を競うコンテストへの参加を推奨し、スキルアップを図るとともに上位入賞を果たす。数学及び英語検定の受験を促し、前年度以上の合格率を目標に掲げ、基礎学力の向上に努める。	イ	A	WAZAフェスタ及びものづくり競技大会において、メカトロニクス・電気工事・化学分析・電子回路組立ての4部門で東海大会出場、プログラミングとデザインの全国大会やコンテストでの入賞、エコーン県大会9連覇など、秀でた技術を発揮することができた。また、応用情報技術者や測量士補など、難易度の高い資格取得や、数検や英検にこれまで以上の生徒が挑戦し、成果を収めた。	引き続き競技会やコンテストを活用し、生徒の技術・技能を発揮する機会を得られるよう努める。また、蓄積されたノウハウの伝承を心掛けるとともに、経験や成果を授業に還元し、全体のスキルアップに努める。
		企業等におけるインターンシップ、高度熟練技能士等による指導を通して、実社会で求められる実践的技術と応用能力を育成する。	34	インターンシップや高大連携事業への積極参加を促し、進路意識や職業意識を高める。各種資格や検定試験の合格率を各科目前年度以上にアップさせるとともに、より高度なレベルの資格試験への受験を促し、多くの生徒を合格させる。	オ	A	インターンシップには、これまで最多92名が参加したほか、静岡大学との高大連携事業に38名が参加するなど、職業や進路に対する高い意欲を活かすことができた。各学科で展開する企業見学と併せ、より実践的な体験を重ねることで、見識を深めることができた。また、中国浙江省への訪問交流事業や熟練指導者による指導を通じて技術を磨くことができ、進路実現や資格取得の更なる意欲につなげることができた。	今後も生徒が社会と関わる機会を設け、社会観や職業観の育成に努めるとともに、進路活動に役立てる。なお、外部との関わりは本校に対する評価と直結しているため、事前指導を徹底する。資格取得については、外部講師を活用するなどし、合格率向上を目指すとともに、より高度で実践的な資格にも挑戦させる。
		産業社会の動向に対応した教育内容の充実を図る。	35	企業研究事業・高大連携事業・多様な人材活用・知財教育事業を積極活用する過程で社会構造およびその動向を研修し、地域社会に貢献できる人材を育成する。	ア	A	年度当初の計画に従い、企業研究・高大連携・知財教育を実践し、地域社会や企業・大学の様子を目の当たりにすることで社会貢献の意義を理解でき、進路に対する意識意欲の高揚を図ることができた。	実践的活動は教育効果が大きく、今後も同様の事業を計画し、実施していくことが望ましいが、より企業や大学との連携を深め、実情や目的にあった活動とすることで、更に効果を高めたい。

様式第4号

〔教育課題〕

領域	ねらい	評価項目	項目番号	達成目標	当該重点目標記号	評価	成果と課題	次年度の取組
情報教育	情報化に対応できる能力の育成	情報活用能力の育成を図る。	53	情報機器が充実した恵まれた環境を活かし、入学後早い時期より情報リテラシーと教育を展開することで、生徒の自律的活動を促す。	オ	A	各学科での指導が実り、諸行事において生徒達が情報機器やプレゼンテーションソフト、視聴覚機器を駆使し、自立的に発表や情報発信をすることができた。	これまで通りの授業展開を行うとともに、生徒の発表の機会確保に努め、より実践的なスキルとしての定着を目指す。
		情報モラルの育成を図る。	54	特に意識の欠如が見られる低学年には、早い時期よりLHR・集会および教科指導を通じて、情報モラルに対する配慮の重要性を説く。	オ	B	各学科において情報モラルを盛り込んだ授業展開が行われたほか、学年集会での注意喚起、また知的財産権に関する教育とも関連させ、モラル育成を図ることができた。	情報技術基礎やHR活動、学年集会等で、身近な事件などの実例を盛り込んだ、より現実味のある啓発を継続させる。
国際理解教育	異文化理解の推進とコミュニケーション能力の育成	多様な文化、歴史等を学習する機会を充実を図る。	55	ALTを活用し、異文化体験会を開催する。	イ	A	他校のALTと会話することで、異文化を身近に感じることができた。	12月に、全校生徒対象の国際理解教育講演会を実施する。発展途上国での駐在体験者に依頼する予定。
		国際交流体験の機会を充実するとともに語学教育の充実を図る。	56	中国浙江省の工業高校を訪問し、生徒中心の交流を実施する。	ア	A	夏の浙江省訪問に23名の生徒が参加し、化学、建築、ロボットの各分野での交流ができた。	中国、台湾両国の学校との交流を引き続き進める。理数工学科の修学旅行、年度末の短期留学を実施する予定。
人権教育	確かな人権感覚の育成	教科・特別活動等において、計画的に人権教育を推進する。	57	人権意識啓発の教材を紹介し、LHRや授業での活用を促す。	オ	B	体罰・いじめ等の報道がされる中、時期にあわせプリント等配布し意識の高揚を図った。	研修会の案内やタイムリーな資料を提供し、意識の向上につとめる。
環境教育	自然を大切にす る心と実践的な 態度の育成	体験的な活動を通じた環境教育を推進する。	58	節電、ゴミの排出量の削減など具体的な目標を掲げ環境教育を推進する。	オ	B	燃えるゴミ・ペットボトル・かん3種類のゴミの分別はできているが、分別した物をどうするかという段階へは進んでいない。	リサイクル・リユースという実践を今後どうしていくかが課題である。さらに、各科で発生する金属を対象にする必要もある。
福祉教育	他人を思いやる心など豊かな人間性の育成	高齢者や障害のある人などへの理解を深める体験活動を推進する。	59	幼稚園における保育体験実習に主体的に参加し、その80%以上がこの実習を好意的に捉え、子育ての意義や命の大切さを再認識する。	オ	A	園児とのふれあいを通じて命の尊さや相手を思いやる気持ちを養うことができた。高校生が主体となって運営することができた。クラス全員で同じ目的に向け準備・実施することで、生徒同士の協調性・相互の親睦を深めることができた。	今年度と同様に高校生が主体となり企画・準備・運営に取り掛かる計画が望ましい。実施日程を相手方に合わせる必要があるため、本校の行事計画が決定次第早めの実施計画を立てる必要である。
防災教育	防災意識及び防災対応能力の育成	大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。	60	これまでの内容に加えて、応急処置の訓練も取り入れる。	ウ	A	12月の防災訓練では浜松市危機管理課職員による講話を行っていただき、災害時の行動について理解を深めた。	年3回実施する防災訓練の内容をより実践的なものにして行く。
		高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、地域と連携しながら防災体制の充実を図る。	61	高校生がかかわった災害の実例を紹介し、自分の住んでいる地域に目を向けさせる。	ウ	A	地域防災への生徒参加率は53%だった。生徒の感想の中には、「訓練や高校生の役割の重要性が実感できた。」という感想が多かった。	地域防災訓練の参加率を50%以上維持する。地域での高校生の役割について理解を深める。